

農林水産統計調査におけるPDCAサイクル点検・評価チェックリスト

政府統計コード	00500215
基幹・一般の別(選択記入)	基幹統計調査
調査の名称	作物統計調査（令和2年産茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量）
政府内における調査結果の利活用状況 ※該当するものを選択(複数選択可)	<input type="radio"/> 重要な政策の立案・実施・評価の直接の根拠資料として利用
	<input type="radio"/> 国が給付する手当や給付金の算定根拠として利用
	<input type="radio"/> 月例経済報告に利用
	<input type="radio"/> 基幹統計の作成に利用
	<input type="radio"/> 基幹統計以外の重要な統計の作成に利用
	<input type="radio"/> その他（現状把握や関係施策立案の参考資料等として活用）
特記事項	

点検・評価事項等 点検・評価項目	調査計画との整合性			不整合が生じている場合の対応状況		
	整合／不整合 (選択記入)	「整合／不整合」欄が「不整合あり」の場合、 その概要等(選択・自由記入)		対応方法 (選択記入)	対応状況 (選択記入)	左記対応の概要(自由記入)
1 調査の目的	整合	結果の利活用実態	その他（ ）			
		(特記事項)				
2 調査対象の範囲※	整合	調査対象地域	調査対象産業			
		その他（ ）				
		(特記事項)				
3 報告を求める個人又は法人 その他の団体(報告者)の数等※	整合	母集団情報	抽出方法・抽出基準			
		全数層・抽出層の設定	対象数の算定			
		その他（ ）				
		(特記事項)				
4 報告を求める事項及びその 基準となる期日又は期間※	整合	調査票	調査事項			
		調査期日・期間	その他（ ）			
		(特記事項)				
5 報告を求めるために用いる 方法※	整合	調査方法	調査系統・組織			
		民間委託の範囲	その他（ ）			
		(特記事項)				
6 報告を求める期間※	整合	調査実施期間(始期・終期)	調査票の提出期限			
		調査の周期	その他（ ）			
		(特記事項)				
7 集計事項※	整合	未集計	未公表			
		復元推計	その他（ ）			
		(特記事項)				
8 調査結果の公表の方法及び 期日※	整合	公表実施時期	公表媒体			
		e-statの掲載	閲覧表			
		その他（ ）				
		(特記事項)				
9 使用する統計基準	整合	独自基準の採用	独自基準の説明			
		その他（ ）				
		(特記事項)				
		調査計画上、統計基準を使用することになっていない。				
10 調査票情報の保存期間及び 保存責任者	整合	保存期間	保存責任者			
		保存方法	その他（ ）			
		(特記事項)				
11 立入検査 (基幹統計調査のみ)	整合	立入検査対象事項	その他（ ）			
		(特記事項)				
12 不整合は生じていないものの、 改善を検討（予定）している事項		検討（予定）している事項の有無 (選択記入)	検討（予定）している事項の概要 (自由記入)	対応方法 (選択記入)	対応状況 (選択記入)	左記対応の概要(自由記入)
		あり	標本数の算出方法の見直しによる報告者数の変更	調査計画の変 更申請	対応中/対応予 定	回収率を加味した標本数の算出方法に変更す る。
		あり	調査対象範囲（主産県の範囲）の変更	調査計画の変 更申請	対応済	強い農業・担い手づくり総合支援交付金による 茶に係る事業を実施する都道府県を主産県の要 件から削除。 令和3年調査から適用するため、令和2年12月 総務省申請、令和3年4月承認。

(注) 「※」を付している一般統計調査の点検項目については、調査事項の10%未満の変更等、承認を要しない「軽微な変更」の範囲や公表内容との整合性に留意して点検を実施。

Ⅱ 必要な精度の確保・向上の観点	1 調査の実施目的を確保するための精度管理の実施状況	目安としている指標の設定状況			目安としている指標の具体的推移 (自由記入。別紙も可)		
		精度管理の目安としている指標区分 ※該当するものを選択 (複数選択可)	目安としている指標の具体的な設定内容・考え方等 (自由記入。別紙も可)	目安としている指標の設定時期 (自由記入)	今回調査 (又は前回調査)	前回調査 (又は前々回調査)	前々回調査 (又は前々前回調査)
		<input type="radio"/> 達成精度(実績精度)	都道府県別の標本数は、全数調査階層の荒茶工場数と標本調査階層の荒茶工場数を足したものとし、標本調査階層については一定の精度（荒茶生産量を指標とした全国の目標精度2～3%）が確保できるよう標本数を算出する。	平成27年産調査（平成26年産調査結果（全国調査）を基に「荒茶工場母集団一覧表」を整備・補正し、左記の標本設計を実施。）	3.6% (令和2年産調査)	2.8% (令和元年産調査)	1.9% (平成30年産調査)
		回収率・回答率					
		回収標本数					
		カバレッジ					
		その他					
		設定なし					